

資本性所得の重要性 —稼ぐエンジンは2つある—

ADVISORY SERVICE SINGAPORE PTE. LTD
Managing Director
相川 聡志



私達は、仕事をしてお金を稼ぎ、そのお金を使って、食事をしたり、住居に住んだり、洋服を着たりしています。つまり、生きていくためには、お金はなくてはならないものなのです。では、お金を生み出すにはどのような方法があるのでしょうか？お金を生む種類は大きく分けて2つあります。1つは冒頭で申し上げたように、自分が働いたことの対価で得る労働性所得です。代表例は給料です。もう1つは、自分が働くのではなく、お金に働いてもらう所得、いわゆる資本性所得です。代表例は上場株式の配当・売却益や不動産収入です。

労働性所得

労働性所得は、自分が仕事をしてその労働対価で給与を得るものです。従いまして、自分が働かないと稼げない所得です。簡便的に数式で表すと、「時間×単価」です。労働性所得を増やすには、労働時間を増やすか、単価を伸ばすしかありません。一般論として、良い大学に入りましょう、資格を取りましょう、出世しましょう、というのは先程の数式の単価を伸ばすことで、労働性所得を増やしましょうという意味です。算式のもう一つの要素である時間は有限です。どんなに頑張っても24時間です。むしろ、病気になったら、どんどんと時間は減っていきますし、事故死などしたら一気に時間はゼロになります。

また、労働性所得は、労働ができる仕事があって初めて成立します。コロナ禍で人の往来が途絶えたため、観光業を始めとして航空業や飲食業は大打撃を受け、仕事がなくなった人もいます。しかし、大

局的な観点から見れば、もっと人間にインパクトがあるのは人工知能（AI）の進化です。コロナは収束するかもしれませんが、AIやITは人の働き方を根本的に変えるだけでなく、仕事自体を代替していつてしまい、究極的には人の仕事がなくなるかもしれません。コロナによりIT化、AI化が5年早く進んだとも言われています（MicrosoftのTeamsユーザー数はこの1年で1500万人から1.19億人に増加、Zoomユーザー数は+485%）。

イギリス・オックスフォード大学の研究によると、私の生業である「公認会計士・税理士」は、AIの進化で近い将来に仕事が無くなる職業として挙げられています。もちろん、私のような職業以外にも多くの職業がAIにより自動化、ないしはロボット化していき、現在の職業の約49%がAI・ロボットに代替されていくと予想されています。

従来のITは定形パターンの自動化やロボット化がメインでしたが、AIの進化により、定形パターンではなく、コンピューターが自分で考え、自分でプログラムを書いて自分で進化することができるようになってきました。映画でいうと、アーノルド・シュワルツェネッガーが主演したターミネーター2の審判の日における、コンピューターが自我を持ちコンピューター自身が自分を創造することができるようになった状況にどんどん近づいています。米フェイスブック社がAIを使ってコンピューター同士にチャットで会話をさせてみたところ、独自に言語を変えていき、人間では理解できないけれども、コンピューター同士の会話は成立しているというところまで来ています。

AIの進化で職業がなくなる分かりやすい例は、バ

スの運転手ではないでしょうか。バスは決められた停留所に決められた道を通って運行しています。自動運転バスの公道実験は既に茨城県堺町でスタートしています。同じような発想からすると、局と局を行き来するような郵便トラックなども、同じように自動化できるでしょう。自動運転だけではありません。中国では、銀行の与信審査から融資実行までをAIの力で進めています。アリババでは、膨大な個人情報データ（クレジットカード・デビットカードの決済履歴、アリペイ決済履歴、銀行情報、給与入金情報、証券口座、消費行動など）をコンピューターの力でスコアリングし、融資実行を数秒で判定、即入金を行っています。米ゴールドマン・サックスでは、数百名のトレーダーがAIにより3名まで人員削減されました。

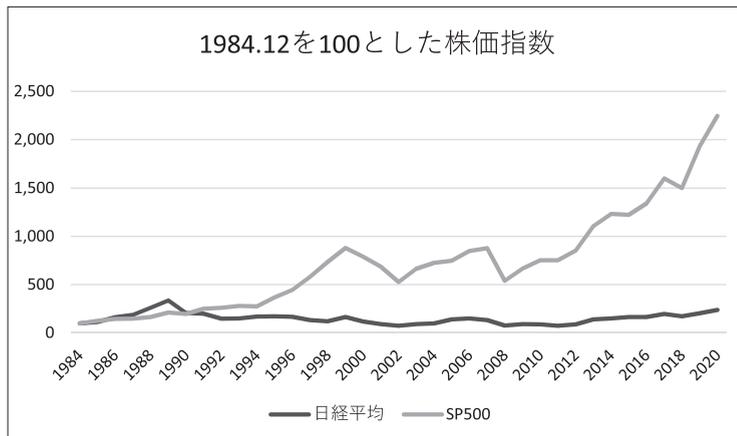
このように、AIの進化により、IT全般がさらに発展し、どんどん人手が不要となる予測です。では、このようなITが究極的に進化した時代、誰が生き残れるのでしょうか。どんどんと、労働がITに置き換えられていきます。逆から見れば、ITが労働している、つまり、ITが労働対価を受け取っているわけですから、お金を稼ぐのは、IT企業になるわけです。もちろん、IT企業で労働してお金を稼ぐ方法もありますが、いつかは自分が育てたITに取って替わられるでしょう。ではどうしたら良いか。それは、ITに稼がせる側に回るのが良いです。リスクを取ってIT企業を起業するのも一つの手法ですが、手軽に実行できるのは、既に上場しているIT企業の株主となることで、IT企業が儲ける分配を享受する手法、つまり資本家に回り、資本性所得を稼ぐことです。

究極的な未来を創造してみてください。全てがAI・IT化され、働くのはロボットだけ。その時代で、人間らしく自主的な選択と決定ができて自由に暮らせるのは、労働性所得ではなく資本性所得で稼げる人間です。それ以外の人間は、細々とした労働性所得にベーシックインカムを与えられる等して、生かされている側の人間となります。映画で言うと、マトリックスで電極を脳に埋め込まれて生きているだけの人間や、Disney映画のウォーリーに出てくる宇宙船に乗ってずっと座席に座ったまま飲んで食べて寝てTV見ただけをしている人間、です。ここまで究極になることはないと思いますが、将来、労働性所得が減る可能性がある以上、資本性所得を稼げるようになっておく必要があるということです。これは労働性所得がまだある自分の世代というよりは、むしろお子さんやお孫さんの世代を考えて資本性所得を稼げるように設計を今からしておく必要があるということです。

資本性所得

幸運なことに、みなさん労働性所得である給与などを貯めて、預金資産は既にお持ちだと思います。しかし、コロナ対策による金融緩和により、全世界的に低金利状態です。そのため、預金資産が増えるのは微々たるもので、利息だけで食べていくのは至難の技です。受け取る年金で賄う以外の生活費が月に30万円必要として、年間360万円を稼ぐには、10年物日本国債0.1%で運用すると、元本は36億円も必要です。

では、9.0%利回り確保できるとどうでしょうか。



1984年12月末を100とした、2020年12月末までの株価指数比較

米国		日本		
9.0%	22.5	対1984年	2.4	2.4%
8.4%	11.4	対1990年	1.2	0.5%
5.4%	2.8	対2000年	2.0	3.5%
11.6%	3.0	対2010年	2.7	10.4%
複利	倍		倍	複利

2020年12月末と、各年からの株価上昇倍率と複利利回り

元本は約4,000万円です。あとは、4,000万円をどうやって貯めるか、ですが、給与で貯めるのは大変ですね。しかし、今から36年前に例えばS&P500指数を177万円買っていただければ、22.5倍に増え、現在は4,000万円になっているのです。9.0%は、S&P500指数の実績利回りです。では、日経平均株価に投資していた場合はどうでしょうか。同じく36年前に177万円を投資したとしても、現在426万円にしかならないです。

お手元にある預金に働いてもらえば、あなたが病気や事故にあつて労働性所得が無くなったとしても、AIやITに職を奪われる日がやってきたとしても、資本性所得により生活をプロテクトすることができます。自分ではなくお金の働いてもらう資本性所得がいかに重要か分かるはず。お金は24時間働いてくれます。お金が働く場所を間違わなければ、お金が病気になって弱くなったり、お金が急死したりはしません。お金が働く場所を証券市場とすれば、どういった国の市場がお金にとって元気に働けるでしょうか。日本は人口減少基調にあるので、需要減少予測ですから、供給も減らさざるを得ず、お金の働き場所はどんどん減っていくでしょう。対して、アメリカは移民容認国家のため、人口増加基調ですから、需要は減らず、供給も増えていきますから、お金の働き場所はどんどん増えて行くでしょう。お金が国境を超えて働きに行くのは非常に簡単です。Employment Passなどのビザも不要です。証券口座やPBさえ開けば、市場が成長していく多くの国にお金を元気に働かせに行かすことができます。

会計的思考からの考察

私は証券会社や銀行の人間ではありません。会計の人間です。しかしながら、簿記という世界から見ても、資本蓄積の重要性は論証することができます。貸借対照表の右側（貸方）はCashの調達形態、左側（借方）はCashの運用形態を示しています。調達金利と運用金利の差が利益として、資本に蓄積されていきます。日本人は、借方のCashの運用をしていないため、新たなCashが生まれず、逆にCashを使うことによる費用化（BSからPLに落ち

る）ばかりしています。これでは働いても働いても、個人の貸借対照表の左側（借方）である資産は増えず、結果として資本の蓄積はできません。資本の蓄積が無いということは、AI・IT化による失職や、事故等による収入減少など人生の偶発事象により、人生が債務超過になる可能性が大いにあります。

	借方: Cashの運用形態	貸方: Cashの調達形態
BS	資産(Cashを運用中) ・現金 ・定期預金 ・株式 ・不動産 運用%↑	負債(他人からCash調達-要返済) ・借入など 調達%↓ 資本(自分でCash調達) ・種銭 ・利益↑=収益-費用…自分へ
PL	費用(Cashを費消・運用失敗) ・旅行、食事 ・利息、売却損 ↓	収益(他人からCash-返済不要) ・給与 ・配当、利息、売却益、家賃 ↑

人生のBalance SheetとProfit and Loss Statement

まとめ

労働性所得には、人間であるがゆえの時間・能力の限界、技術進化・病気・事故による雇用機会の減少・喪失という要素があるため、お金を生み出す方法としては不完全です。そのため、自分ではなく、お金の働いてもらう資本性所得を獲得することが重要になります。日本はお金の教育が遅れています。私どもの会計事務所には、相続や生前贈与などでお客様がご相談にいらっしゃいます。資産状況についてかなりの件数をヒアリングしてきましたが、せっかく資本性所得を稼げる機会があったのに、みすみす種銭を浪費しているような方が多く見受けられます。ぜひともこの機会にみなさまが資本性所得の重要性に気づいて頂ければと思います。

執筆者氏名

相川 聡志 (あいかわ さとし)

経歴

公認会計士・税理士。1979年2月生まれ。2003年公認会計士第二次試験合格後、新日本監査法人入所。2008年独立し、東京に愛宕山総合会計事務所を設立。2012年に、Advisory Service Singapore Pte.Ltdを設立し、シンガポールオフィスを開業。東京・シンガポール・バンコクを中心に、法人設立・会計税務、富裕層向けサービス、相続対策サービスを展開中。Youtubeチャンネルを開業し、シンガポール・タイを中心に国際税務について情報発信を行っている。